

3-11 Hoshigadai, Tajimi City, Gifu Pref., 507-0811 JAPAN

TEL. +81-572-22-5381 / FAX. +81-572-25-1163

URL: <http://www.ceram.rd.pref.gifu.lg.jp>Mail: info2@ceram.rd.pref.gifu.jp

Gifu Prefectural Ceramics Research Institute

岐阜県セラミックス研究所

since 1911

TM

「代用陶磁器が語る戦時下のものづくり展」を開催します

第二次世界大戦下には、不足する金属製品の代替として様々な陶磁器製品が使用されており、岐阜県陶磁器試験場（現セラミックス研究所）でも、代用陶磁器の研究開発や試作が行われていました。

このたび、当研究所で収蔵する当時製作された代用陶磁器試作品70点を下記のとおり初公開します。

記

- 日 時：令和8年8月3日(月)から21日(金) ※土・日・祝日を除く 9:00～16:00 ※入場は15:50まで
- 場 所：当研究所 展示場 (多治見市星ヶ台3-11)
- 内 容：戦時下に作られた代用陶磁器試作品約70点を展示
- 入場料：無料

約70点の試作品が語る歴史の断片

■ 展示品写真：展示する代用陶磁器試作品の一例

昭和13年(1938年)の国民総動員法施行以降、金属資源は軍需用途が優先され、家庭用品をはじめ多くの金属製品が回収されました。こうした状況の中で、金属製品に代わるさまざまな陶磁器製品の試作が進められ、一部は商品化にも至りました。

本展では、不足する金属製品に代わる陶磁器製品の研究開発や試作を行っていた、岐阜県陶磁器試験場（現セラミックス研究所）に収蔵されている代用陶磁器試作品約70点を初めて公開します。物資不足の時代に生み出された技術や工夫の数々を通して、戦時下の暮らしやものづくりの歩みに触れていただくとともに、限られた資源の中で価値を生み出す発想について考える機会となれば幸いです。



金属製ガスコンロ



陶磁器製ガスコンロ



金属製棚受け



陶磁器製棚受け

【研究紹介】AIを活用した補修用タイルの色合わせ技術を開発

■ 背景

ビルなどの外壁タイル補修では、既存タイルと同じ色合いのタイルを選定するため、多くの時間と熟練技術を要します。

■ 開発した技術

AI (Segment Anything Model) によるタイル領域抽出と、マハラノビス距離を用いた色分布解析を組み合わせて、**既存タイルに類似した色合いのタイルをデータベースから高精度に選定する技術**を開発しました。

■ 効果

本研究では、**92種類のタイルを100%正しく識別し、既存タイルと同じ色合いのタイルを97%の精度で選定できることを確認**しました。これにより、**補修用タイルの選定時間の短縮や、色合わせ作業の客観化・効率化が期待**されます。

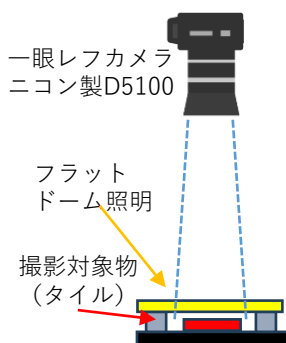


図1 撮影環境



図2 撮影で使ったタイルの例



図3 処理の流れ

研究成果

- ✓ 92種類のタイルを100%識別
- ✓ 既存タイルと同一色のタイル判定97%
- ✓ タイル補修の色合わせを効率化
- ✓ タイル補修の品質評価を客観化

「夏休み親子体験教室」を開催しました

精妬器研究会の協力のもと、県内の小学生とその保護者を対象とした夏休み親子体験教室を、7月18日に開催しました。8組22名の方々が参加され、岐阜県の郷土工芸品である「精妬器」の魅力に触れながら、絵付けや加飾を楽しまれました。

精妬器は美濃焼の一種で、黄みを帯びたきめ細かい肌に化粧を施し、高度な装飾技法によって見る人を魅了する伝統的なやきものです。

参加者の方々は、精妬器研究会の方から指導を受け、それぞれが考えたデザインを茶碗と皿の各1点ずつに加飾して、作品を仕上げました。



講師から説明を受ける受講者



精妬器に加飾する受講者

地域のものづくりを支える人材育成の一環として見学会を開催しました

5月14日に19名の多治見工業高校専攻科の教員と学生が、7月1日に20名の多治見市陶磁器意匠研究所の学生が当所所有の研究装置や釉薬カラーライブラリーを見学しました。

陶磁器・セラミックス業界の将来を担う若手の方々へ、今後の活動の一助となることを目指して、当所の研究内容や設備を紹介しました。

職員から説明を受ける
専攻科の教員と学生職員から説明を受ける
意匠研の学生